

高速道路整備によるストック効果集

～ 民営化10年をふまえ、高速道路による地域貢献事例を紹介します ～

高速道路は、地域間の移動時間短縮など交通機能の向上を通じて、沿線地域の工業・農水産業・観光など諸産業の活性化や、行動圏の拡大による日常活動の活発化をもたらし、その結果、地域の活性化に大きく寄与しています。

NEXCO西日本は、高速道路をより多くの方々に活用していただけるよう、ネットワークの整備と安全・安心の追求、更なるお客様満足度の向上など、たゆまぬ努力を続けています。

民営化10年を迎え、新規開通区間を中心に「高速道路整備によるストック効果集」としてとりまとめました。



目次

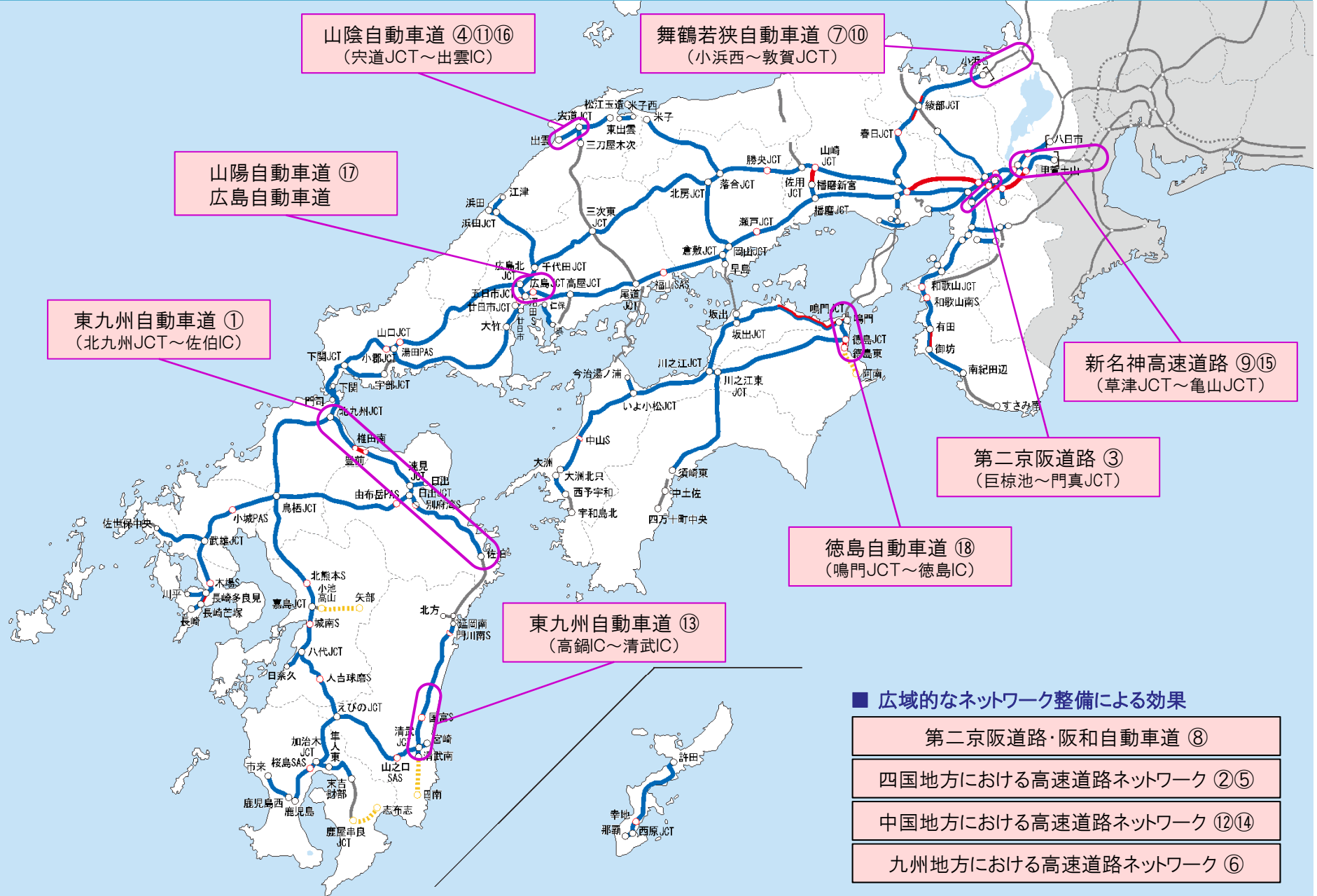


地域産業の活性化(農水産品の流通支援)	
東九州自動車道(北九州JCT～佐伯)	①
四国地方における高速道路ネットワーク	②
地域産業の活性化(企業立地、雇用拡大)	
第二京阪道路(巨椋池～門真JCT)	③
山陰自動車道(宍道JCT～出雲IC)	④
四国地方における高速道路ネットワーク	⑤
九州地方における高速道路ネットワーク	⑥
舞鶴若狭自動車道(小浜西～敦賀JCT)	⑦
地域経済の活性化(観光地へのアクセス向上)	
第二京阪道路・阪和自動車道	⑧
新名神高速道路(草津JCT～亀山JCT)	⑨
舞鶴若狭自動車道(小浜西～敦賀JCT)	⑩
山陰自動車道(宍道JCT～出雲IC)	⑪

高速バスによる利便性の向上	
中国地方における高速道路ネットワーク	⑫
救急医療への貢献	
東九州自動車道(高鍋～清武)	⑬
中国地方における高速道路ネットワーク	⑭
新名神高速道路(草津JCT～亀山JCT)	⑮
山陰自動車道(宍道JCT～出雲IC)	⑯
災害復旧活動への貢献・信頼性の向上	
山陽自動車道・広島自動車道	⑰
徳島自動車道(鳴門JCT～徳島IC)	⑱

位置図

NEXCO



■ 広域的なネットワーク整備による効果

第二京阪道路・阪和自動車道 ⑧

四国地方における高速道路ネットワーク ②⑤

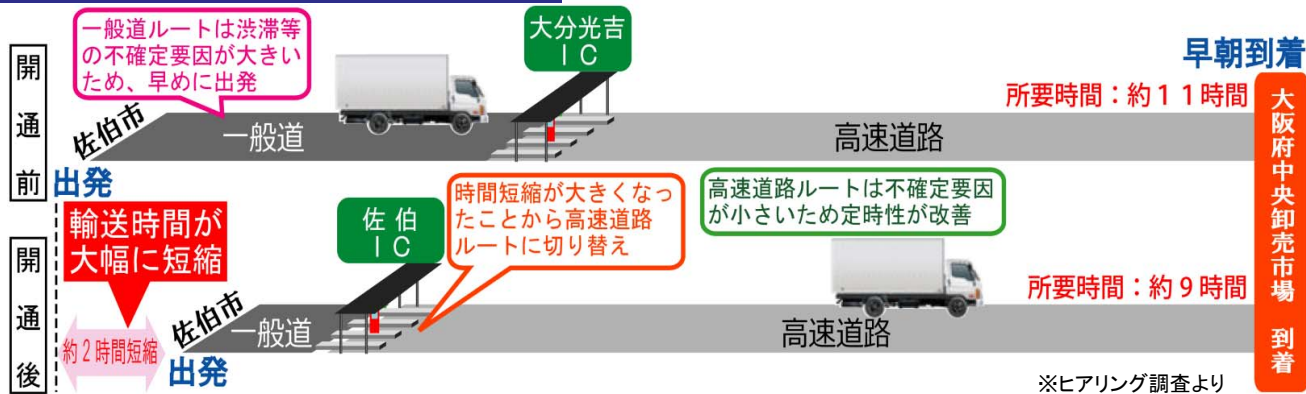
中国地方における高速道路ネットワーク ⑫⑭

九州地方における高速道路ネットワーク ⑥

① 東九州自動車道の整備による地域産業の活性化 (水産業の流通支援)

○養殖ぶりの主要生産地である佐伯市において、東九州自動車道の整備により大阪府中央卸売市場への出荷時間が短縮し市場シェアの拡大に貢献。

大阪府中央卸売市場への輸送の変化

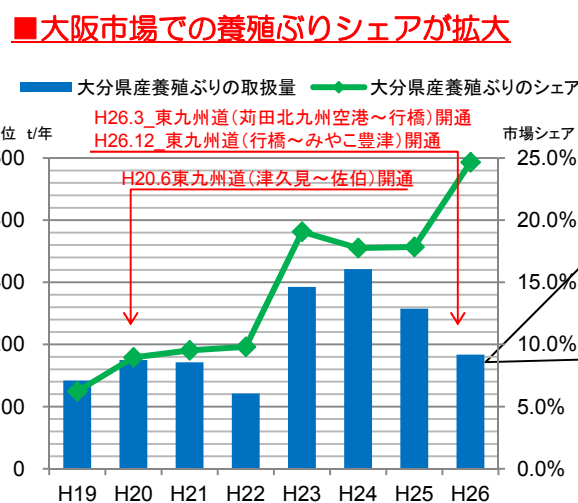


【水産会社の声】

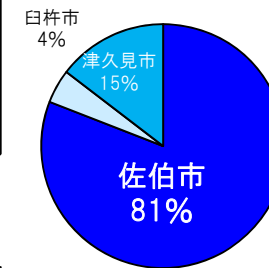
- ・市場の開始前に届かないと価格が下がるため、出荷においては時間短縮と定時性確保が重要。
- ・東九州道開通により所要時間が短縮されたほか、一般道の渋滞を回避でき定時性が向上した。
- ・鮮度の高い魚を市場開始前に確実に届けられるようになったことは、商売上のメリットが大きい。



大分県産養殖ぶりの取扱量とシェア(大阪府中央卸売市場)



大分県産養殖ぶりの約8割が佐伯市産



出典: 水産統計

出典: 大阪府統計

<開通前後の輸送経路比較> ※ヒアリング調査より

養殖ぶり

② 四国地方の高速道路ネットワーク整備による 地域産業の活性化(農水産品の流通支援)

- 高速道路ネットワークの整備に伴い四国地方の農水産品の市場におけるシェアが増加。
- 消費地へ迅速かつニーズに対応した輸送が可能となり市場シェアの拡大に貢献。

大阪市中心卸売市場への輸送ルート

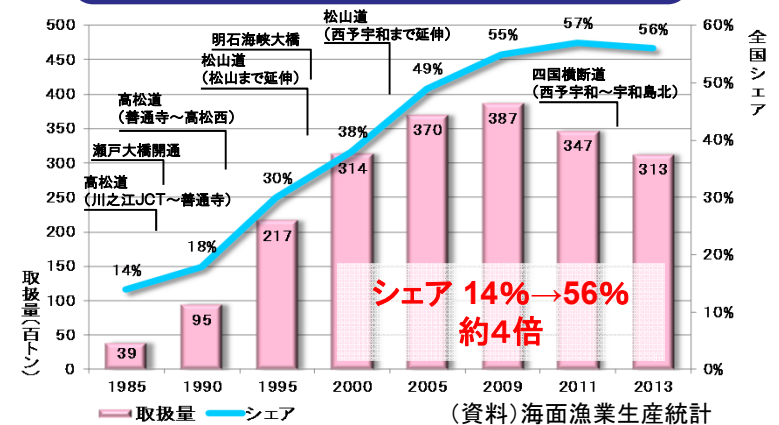


【漁業関係者(愛媛県)の声】

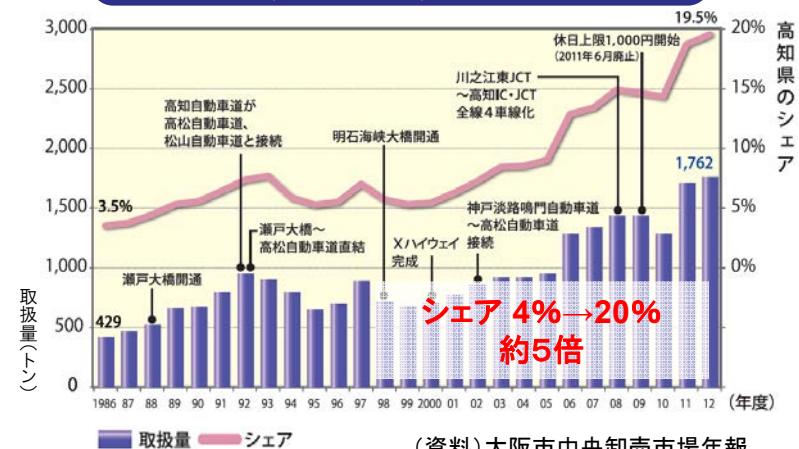
高速道路ネットワークの整備により、配送時間短縮による品質の維持、配送ルートの自由度向上、バイヤー来訪の増加、ドライバーの疲労軽減などさまざまな効果がある。消費地の要求に対応した出荷が可能となり、タイムリーな品揃えと出荷量を把握し、適正な価格で販売できるようになった。



愛媛県産養殖マダイの取扱量とシェア



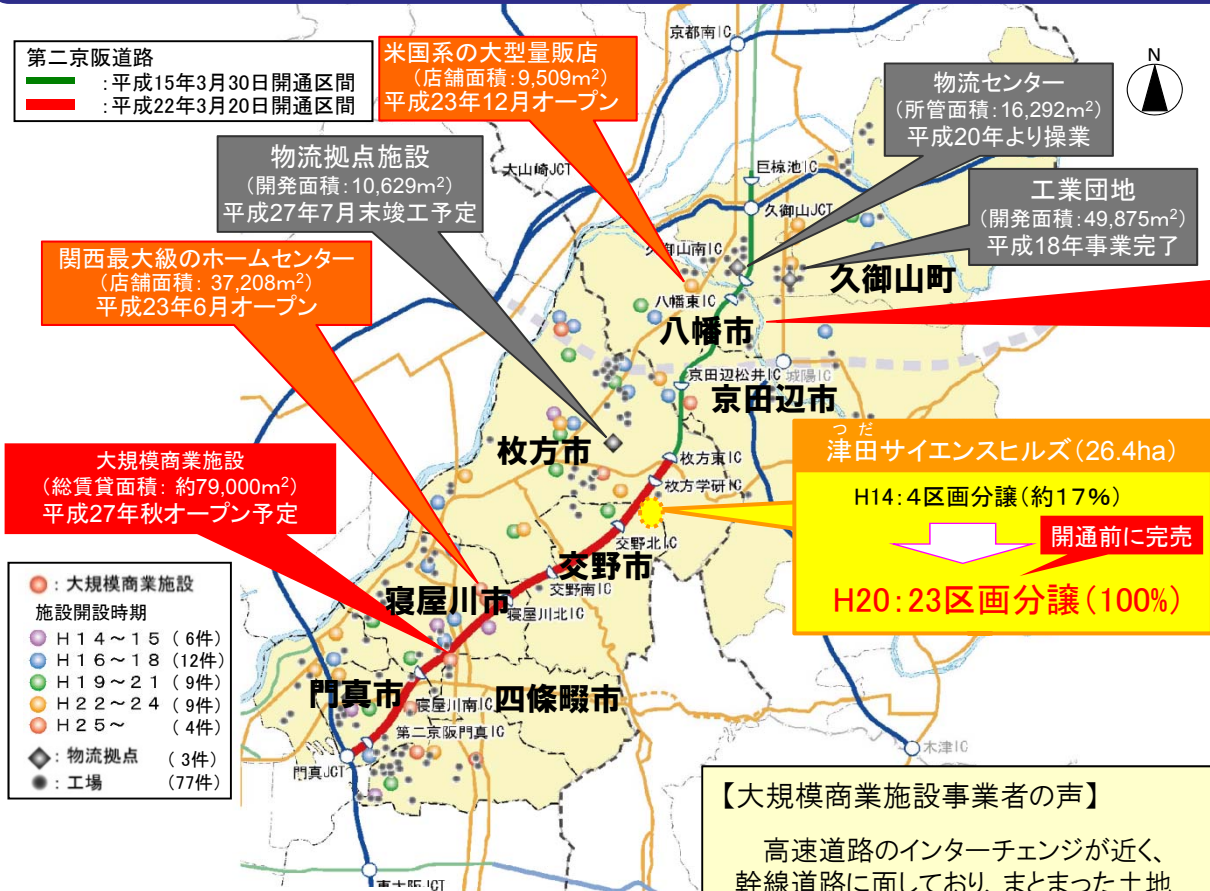
高知県産ナスの取扱量とシェア



③ 第二京阪道路の整備による地域産業の活性化 (企業立地の促進)

- 第二京阪道路の開通に伴い、沿線に大規模商業施設・工場・物流拠点が新たに立地。
- 全区画分譲済みの工業団地も多数あり、沿線市の法人市民税収が増加するなど地域経済の発展に貢献。

第二京阪道路沿線の大規模商業施設・工場・物流拠点の立地状況



出典: 大規模商業施設: 大阪府HP、京都府HP
物流拠点及び工場: 国土交通省調べ

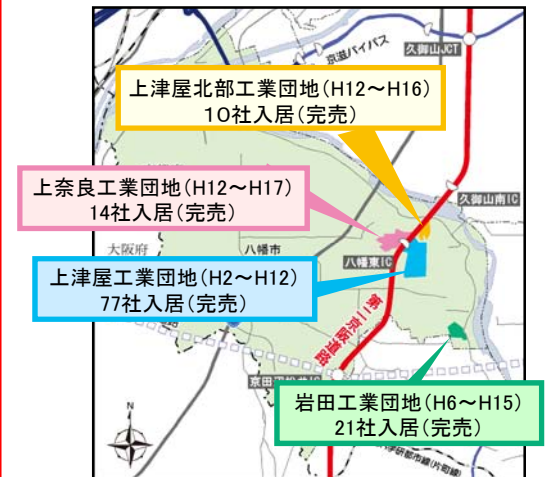
※大規模商業施設: 大規模小売店舗立地法に基づく新設の届出施設
物流拠点: 平成12年以降に立地、企業の売上高100億円以上の物流拠点
工場: 3,000㎡以上の工場
所管面積: 保管室及び建物内の荷役場の総延床面積

【大規模商業施設事業者の声】

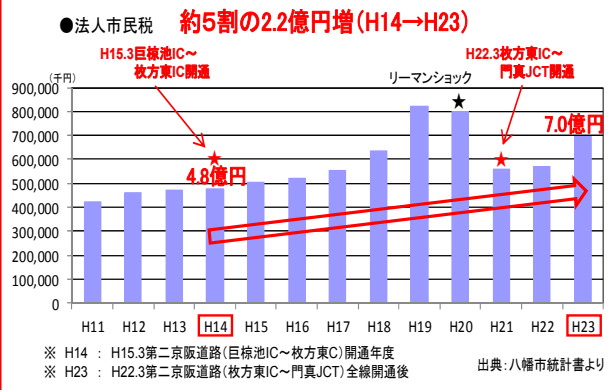
高速道路のインターチェンジが近く、幹線道路に面しており、まとまった土地が確保できるという条件で出店を考えていたところ、第二京阪道路の整備を聞き出店を決めました。

京都府八幡市では税収が増加

■第二京阪道路沿線の八幡市においては、4箇所の工業団地が立地し全て完売。現在、約120社が操業中



■八幡市の法人市民税収が増加

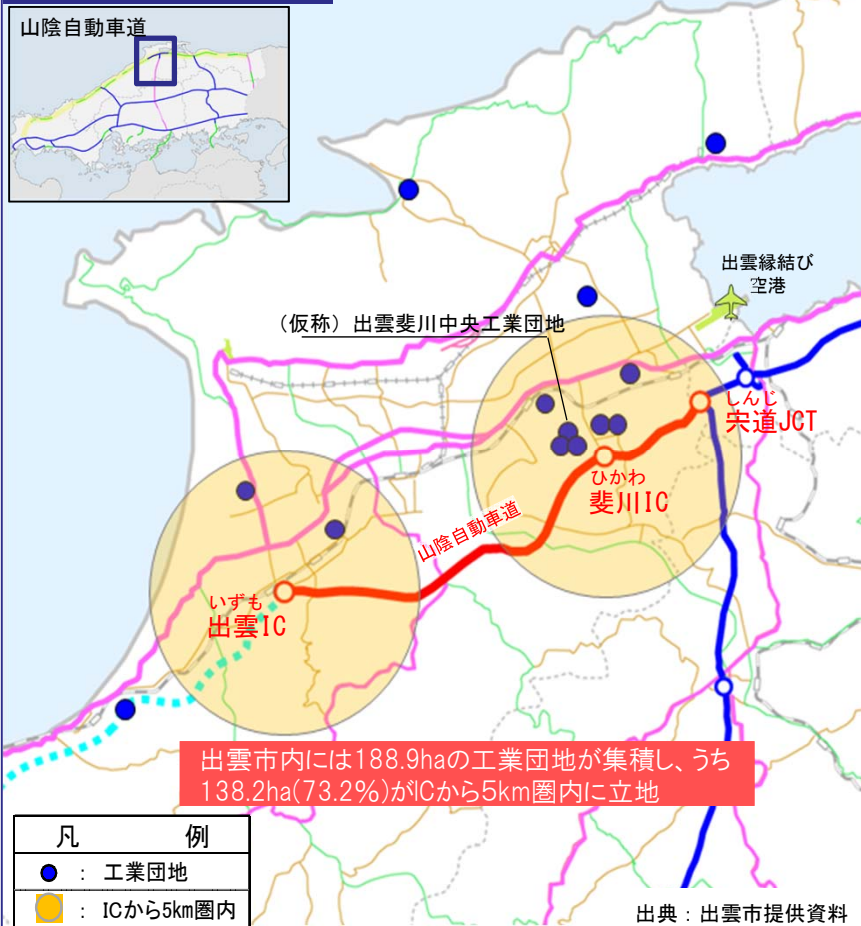


④ 山陰自動車道の整備による地域産業の活性化 (企業立地の促進)



- 斐川ICを中心に工場が集積し、年間の新設・増設件数は事業着手後約2倍に増加。
- 工場の集積が進む旧斐川町では人口も増加するなど、企業立地の促進に貢献。

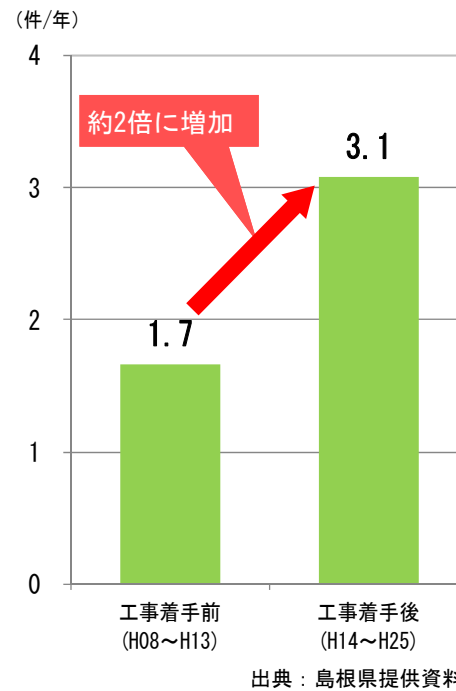
工業団地の集積状況



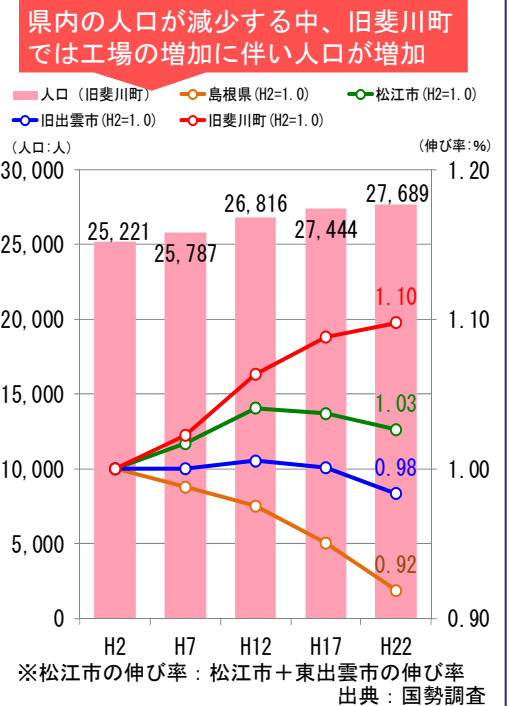
● (仮称) 出雲斐川中央工業団地

- ・ 出雲縁結び空港から15分、斐川ICから3分という交通アクセスの良さをPRポイントに造成

工場の新設・増設件数の変化



工場集積に伴う人口の増加状況



【地元からの声(出雲市産業振興課)】

- ・ 出雲市としては、山陰自動車道の開通を契機として企業誘致を行っており、斐川ICの近くに造成中の「(仮称)出雲斐川中央工業団地」は平成27年7月の分譲開始に向けてPRを行っている。
- ・ 斐川IC及び出雲IC周辺の工業団地は、出雲縁結び空港、山陰自動車道(斐川IC)の双方に近いという点がPRポイントとなっている。
- ・ 立地企業周辺に従業員が住むことで人口の微増が続いている。



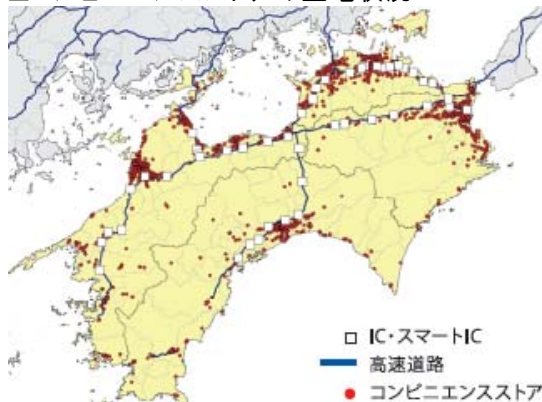
⑤ 四国地方の高速道路ネットワーク整備による 地域産業の活性化(企業立地の促進)



- 高速道路沿線に、コンビニエンスストアや大規模小売店舗が多く出店。
- 高速道路ネットワークの整備により、商品の配送が可能となり商圈が拡大するなど、地域産業の活性化に貢献。

コンビニエンスストアや大規模小売店舗の出店状況

■コンビニエンスストアの立地状況



(資料)電話帳における分類が「コンビニエンスストア」であるものを抽出(2014年4月時点)

コンビニエンスストアや大規模小売店舗の立地場所は、高速道路沿線に多く、高速道路ネットワークの整備が商業施設の誘致に貢献。


■大規模小売店舗の立地状況



(資料)「日本スーパー名鑑(2014年版)」 「全国大型小売店総覧(2014年版)」

【大規模小売店事業者の声】

- ・松山市の店舗では宇和島市からも来店していただけるようになり、**商圈が拡大**していると感じています。
- ・店舗間の巡回が効率的に行えるようになりました。



コンビニエンスストアの出店(配送条件を満たすエリアの拡大)




【コンビニエンスストア関連事業者の声】

店舗立地の条件として「年間を通した安定的な需要が見込める」「工場発送～商品陳列までが3時間以内」を満たすことが必要です。

本四高速を経由する配送は採算性の面から見合わせていましたが、一定の店舗数を確保できることになり、四国内に工場を設置する目処が立ったことが出店の決め手となりました。

高速道路の延伸により配送条件を満たすエリアが拡大し、店舗展開のポテンシャルが高まっています。

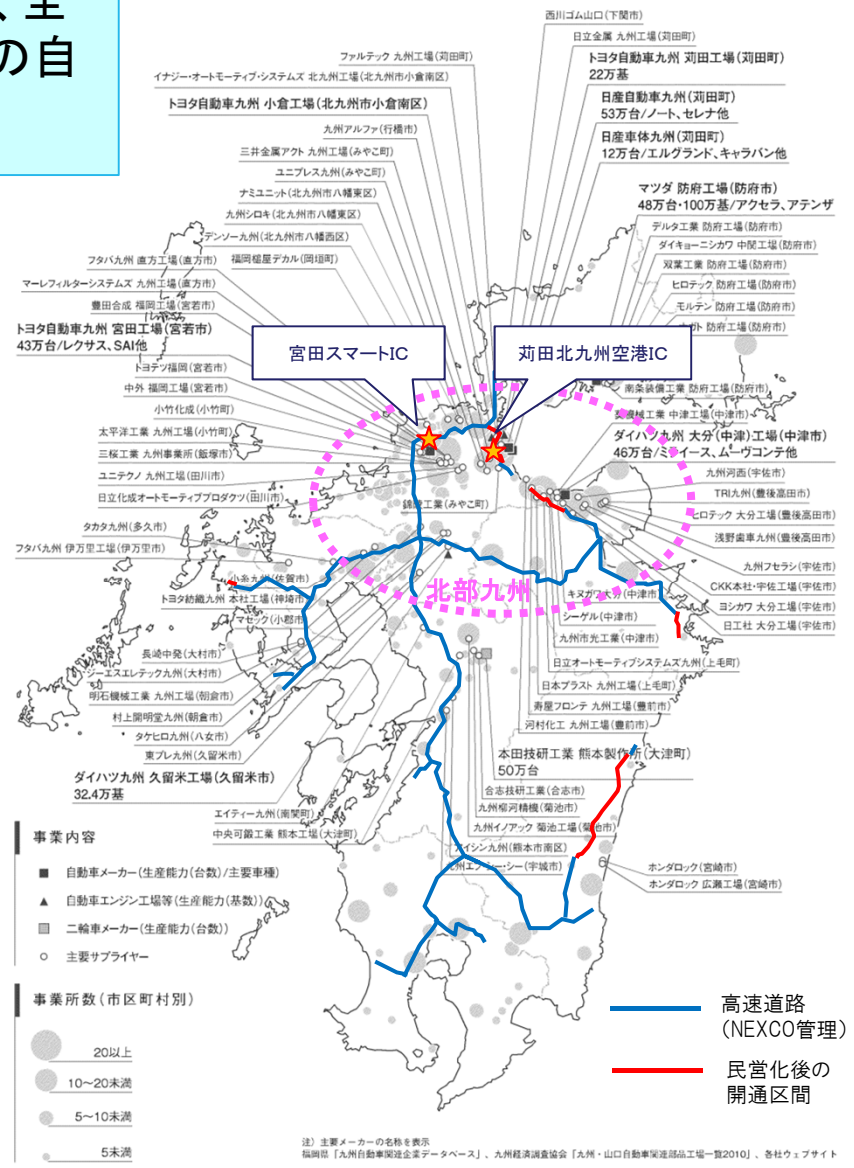


⑥ 九州地方の高速道路ネットワーク整備による地域産業の活性化(自動車産業の支援)

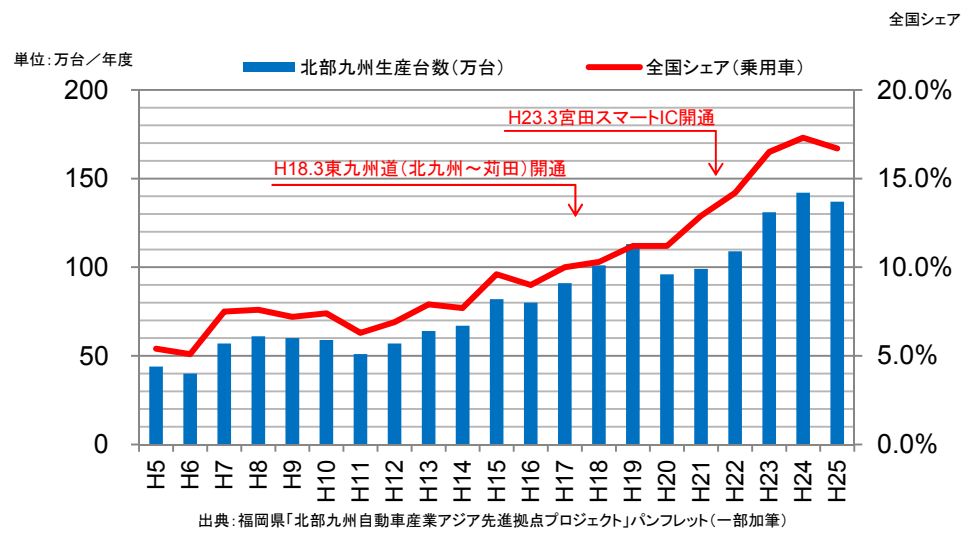


○高速道路ネットワークやスマートICの整備により、全国有数の自動車産業拠点である北部九州地域の自動車産業の発展に貢献。

主要自動車関連事業所地図



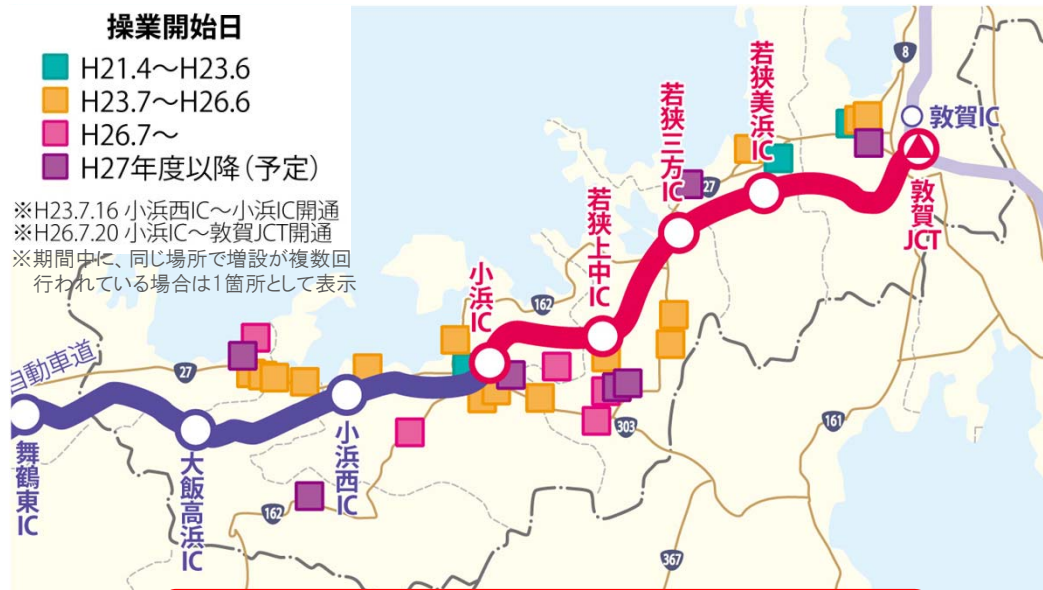
北部九州地域の自動車生産台数の推移



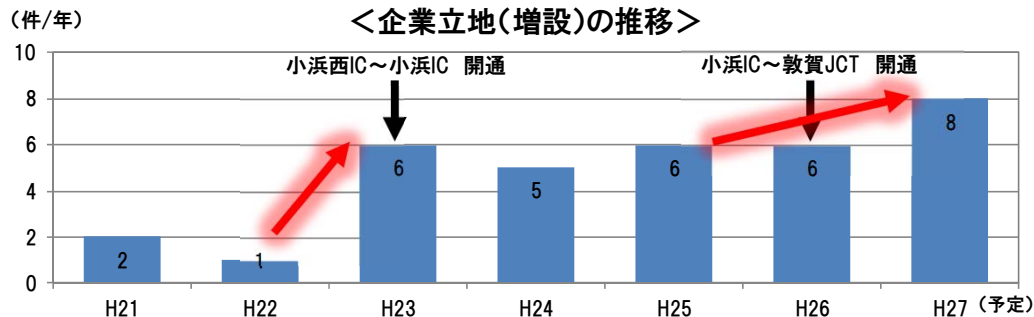
⑦ 舞鶴若狭自動車道の整備による地域経済が活性化 (地域の雇用拡大)

- 舞鶴若狭自動車道が全線開通(H26.7)し、高速道路沿線地域の企業立地が増加。
- 新規学校卒業者の求人数が約4割増加するなど雇用が拡大し地域経済の活性化に貢献。

福井県嶺南地域の企業立地(増設)状況

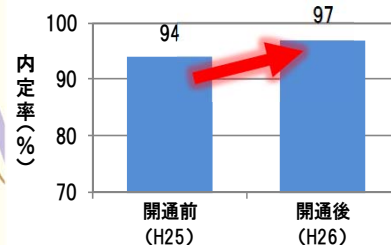


舞鶴若狭自動車道の沿線地域では**企業立地が進展**



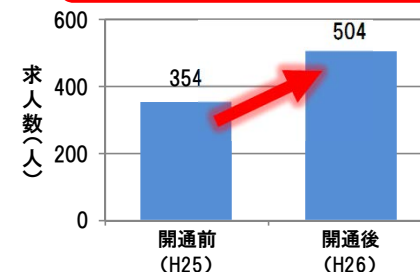
新規学校卒業者の内定率

内定率が**3ポイント上昇**



新規学校卒業者の求人数

求人数が**約4割増加**



※出典：ハローワーク敦賀、ハローワーク小浜

【地元からの声】

企業立地・増設が進むなど、福井県嶺南地域の企業が元気です。嶺南地域全体でみて、就職の選択肢が広がっています。

【企業の声】

工場を増設し、雇用が増加したため、单身寮の増設を行いました。高校卒業者の内定率も高まっているため、採用活動に力を入れています。

【ハローワーク小浜の声】

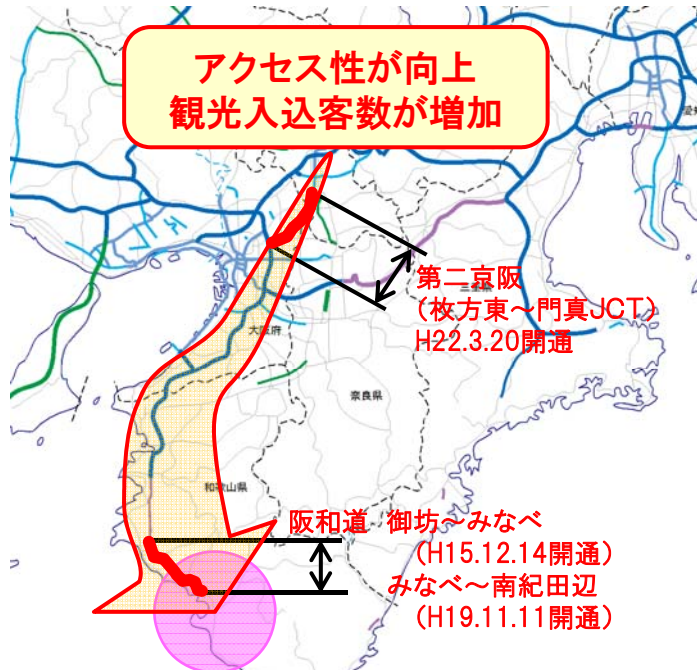
新規卒業者の求人数が昨年に比べて増加しており、平成27年3月卒業者の内定率も大きく増加しています。



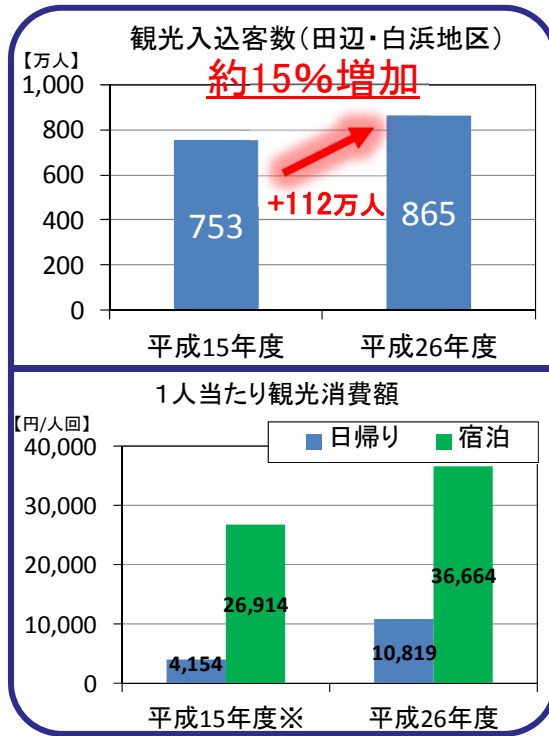
⑧ 第二京阪道路・阪和自動車の整備による 地域経済の活性化(観光地へのアクセス向上)



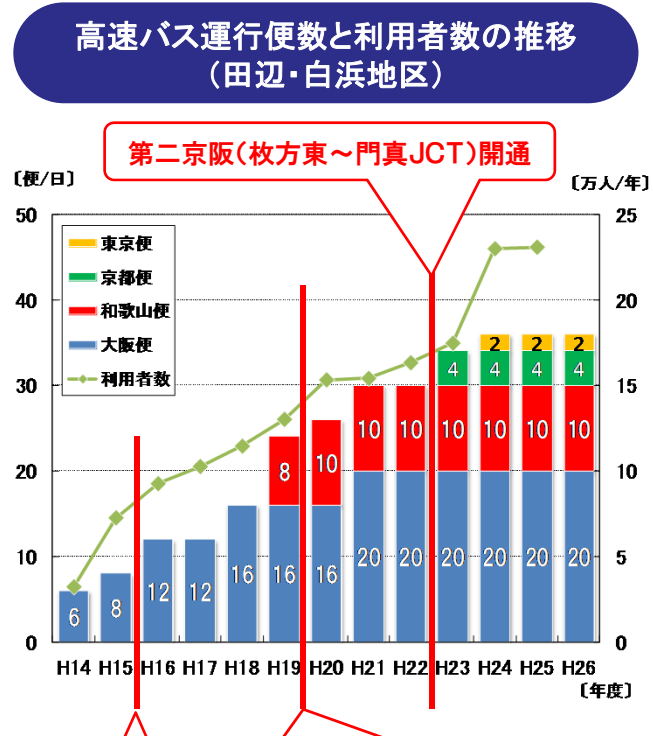
- 高速道路ネットワークの整備により観光地(田辺・白浜地区)へのアクセスが向上し、入込客数の増加など地域の活性化に貢献。〔観光入込客数(H15→H26)：約112万人/年(約15%)増加〕
- 観光入込客数の増加に加え、移動時間短縮による観光地での滞在時間増加による1人当たりの観光消費額の増加により、年間当たり観光消費額が増加。(H15→H26 約300億円増)
- 白浜方面への高速バス路線も増発され、利用者数も増加。(第二京阪全通に伴い京都便が新設)



田辺・白浜地区：みなべ町、印南町、田辺市、上富田町、白浜町
【出典】
・観光入込客数：和歌山県 観光動態調査
・1人当たり観光消費額：和歌山県 観光統計調査
(※：H15年度は調査なし⇒直近のH14年度データを採用)
・観光消費額(試算値)
和歌山県 観光統計調査 経済波及効果の推計手法を基に
NEXCO西日本で試算



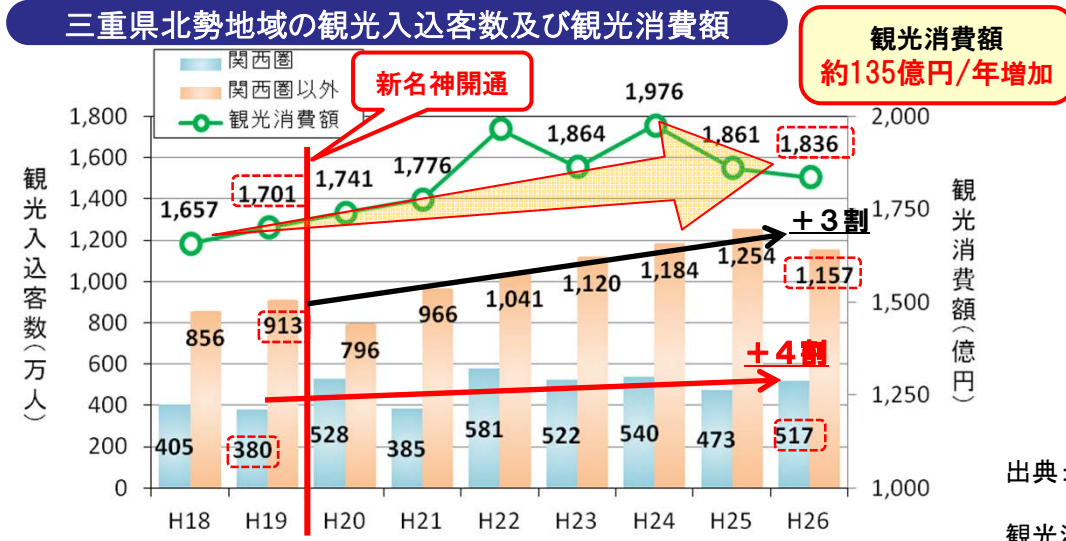
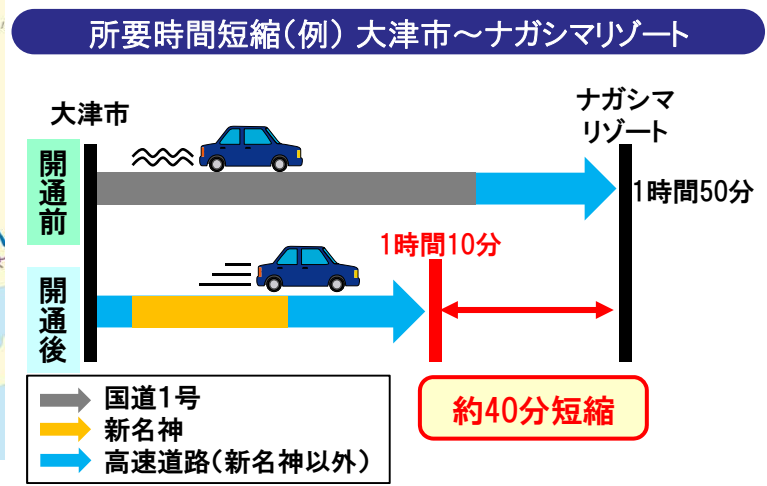
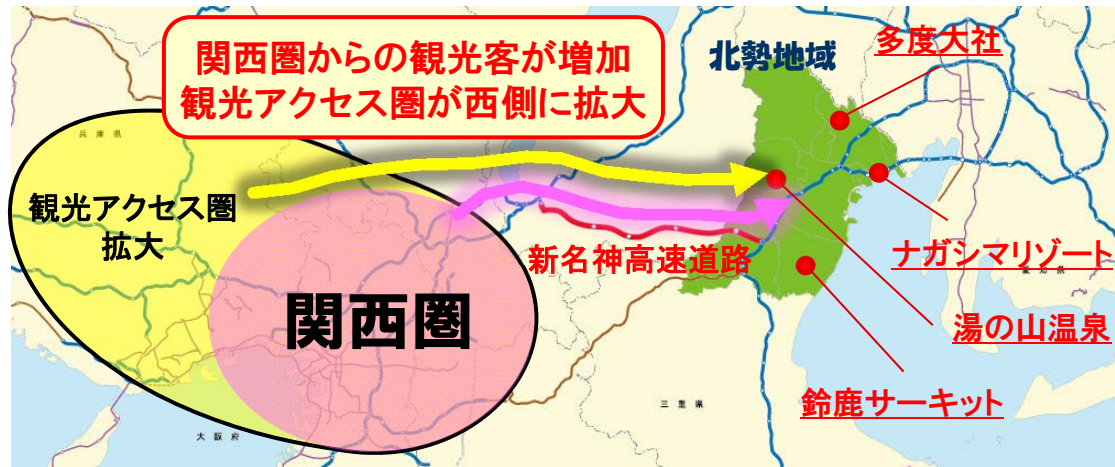
**年間当たりの観光消費額が
約300億円増加
(H15:約570億円⇒H26:約870億円)**



高速バス利用者数：和歌山県調べ

⑨ 新名神高速道路の整備による地域経済の活性化 (観光地へのアクセス向上)

- 新名神高速道路の開通によりアクセスが向上し、沿線地域の観光入込客数が増加。
- 三重県北勢地域の観光地では、関西圏からの観光客が開通前より約4割増加し、兵庫以西の宿泊客も増加するなど観光アクセス圏の拡大に貢献。
- また、新名神高速道路の開通前(H19)とH24を比較すると観光消費額が約275億円/年増加。



【観光施設の声(三重県 北勢地域)】

新名神開通後は、関西方面からのアクセス時間が短縮したことにより、**滋賀・京都ナンバーの車両が3割～4割増加**している。

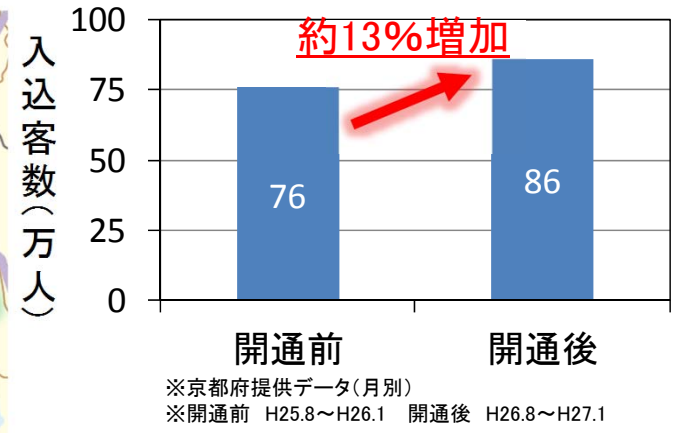
兵庫以西からの宿泊客も増加しており、新名神の整備により、観光アクセス圏が拡大していると感じている。

出典: 三重県観光客実態調査報告書
 三重県観光レクリエーション入込客数推計書
 観光消費額 = 観光入込客数 ÷ 平均訪問地点数 × 1人当たり観光消費額

⑩ 舞鶴若狭自動車道の整備による地域経済の活性化 (観光地へのアクセス向上)

- 舞鶴若狭自動車道の全線開通により、北陸地方や中部地方から京都府北部地域の観光地へのアクセスが向上し観光アクセス圏の拡大に貢献。
- 京都府北部地域の所要観光施設では、全線開通後6ヶ月間で入込客数が約10万人(約13%)増加。
- 入込客数の増加に伴い、舞鶴若狭自動車道の全線開通前と比較し観光消費額が約2.5億円増加。

京都府北部の主要観光施設



入込客数が約10万人増加



入場料・食事・お土産などの
観光消費額が6ヶ月間で
約2.5億円増加

【観光施設の声】

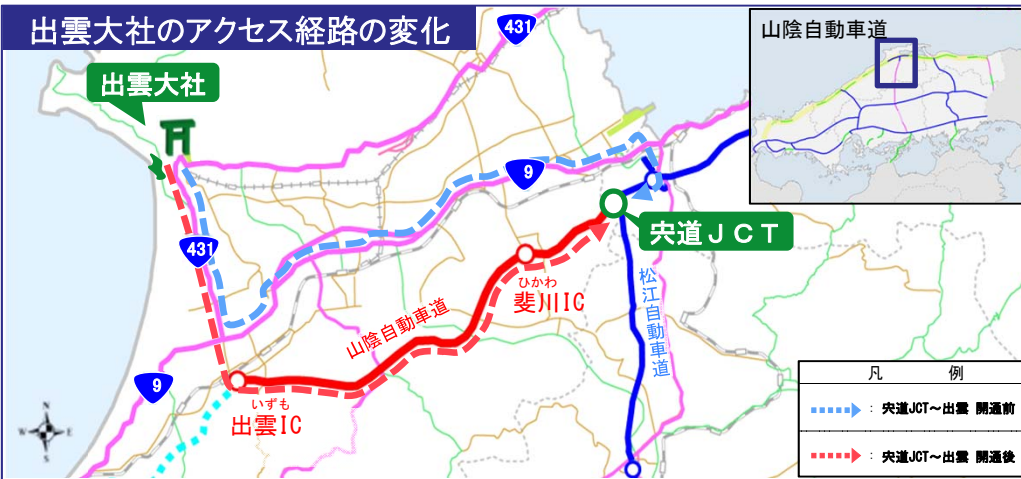
福井・金沢から日帰りが可能となり、北陸地方ナンバーの車や観光ツアーのバスが増加しています。愛知県や福井嶺北地方から近くなったとのお客様の声を聞いています。



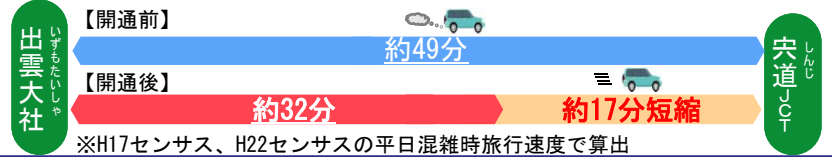
※写真: 京都府提供

⑪ 山陰自動車道の整備による地域経済の活性化 (観光地へのアクセス向上)

- 山陰自動車道の開通により移動時間が短縮し観光地へのアクセスが向上。
- 出雲大社へ参拝に訪れる観光バス及び自家用車の多くが出雲ICを利用しており、周辺一般道の混雑緩和に貢献。



所要時間の変化



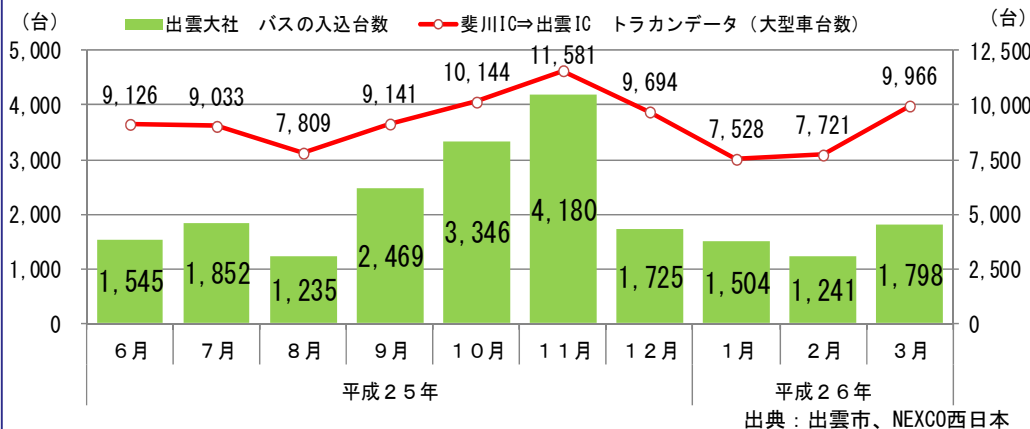
【地元からの声(出雲市産業観光部観光交流推進課)】

- ・H25は出雲大社への参拝者数が約800万人を超え出雲市内の一般道においても渋滞が発生した。山陰自動車道が整備されていなければ渋滞は更に大規模になっていたと思われる。
- ・出雲大社へはほとんどの自家用車と観光バスが出雲ICもしくは斐川ICを利用して参拝している。
- ・特に出雲ICから国道431号一本でアクセスできるため便利が良く、相当数の利用がある。
- ・出雲での滞在時間が増え、山陰自動車道の延伸は好影響を与えている。

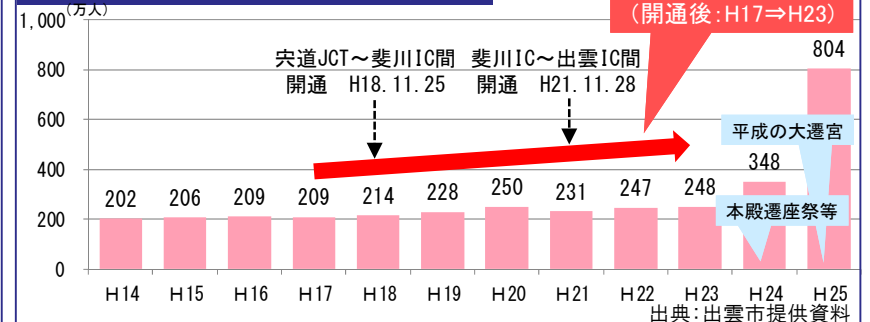


出雲大社の観光バス入込台数と本線大型車交通量の相関

出雲大社へ参拝するバス台数と本線(斐川IC～出雲IC間)大型車交通量の関連が高い



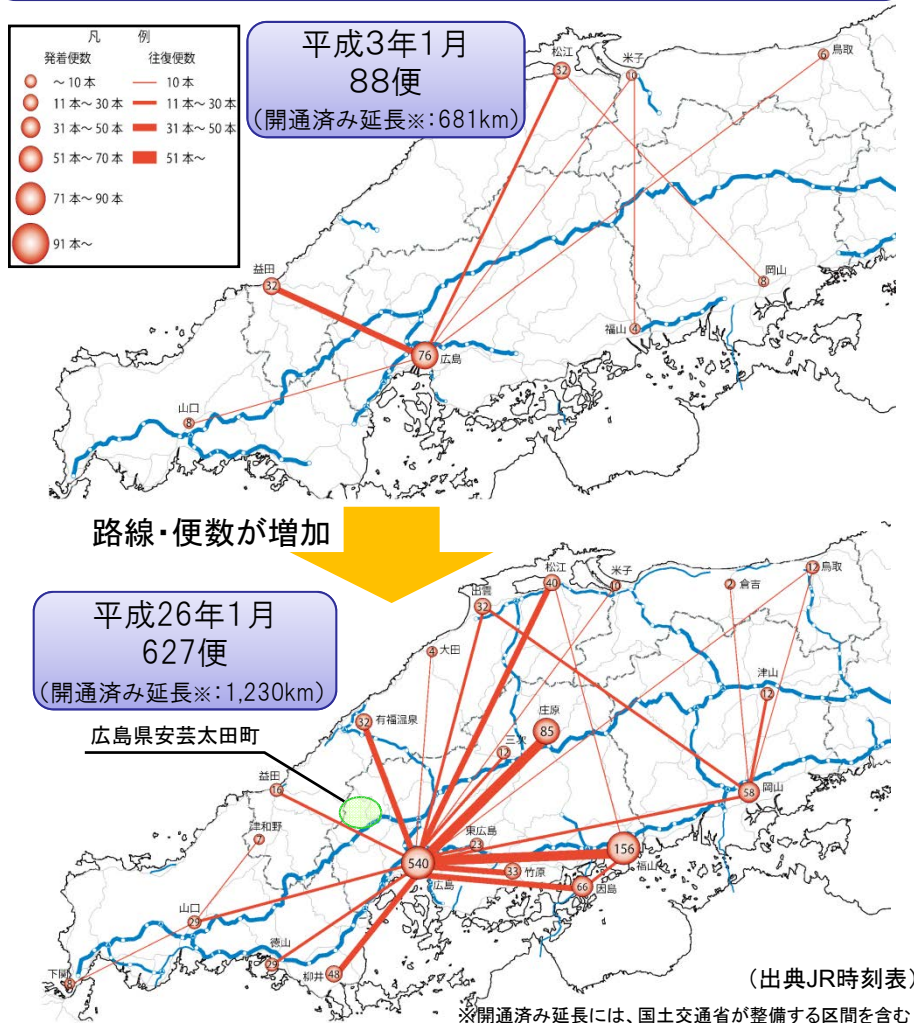
出雲大社への参拝者数の推移



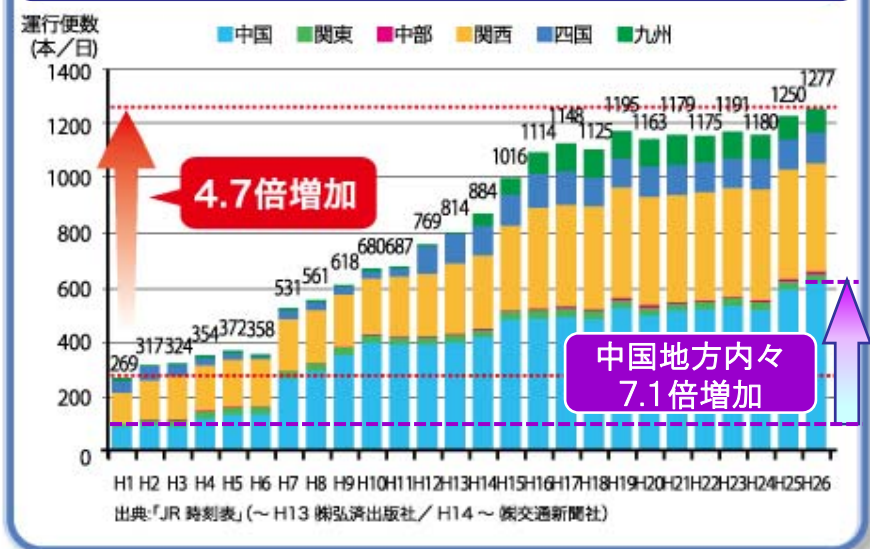
⑫ 中国地方の高速道路ネットワーク整備による 広域交流の活性化(高速バスによる利便性の向上)

- 高速道路ネットワークの延伸とともに高速バスの路線、便数が増加。(H3:88便→H26:627便〔約7倍〕)
- 高速バスにより自宅からの通勤や通学が可能になり、地域の定住化に貢献。

中国地方を発着する高速バスネットワークの変化(中国圏内)



中国地方を発着する高速バスの運行便数(中国圏外含む)



【地元からの声(安芸太田町)】

- ・町内にある高校は1校のみで、**高速バス(12便/日)**を利用して**広島市内の高校に通学している高校生も多い。**
- ・高速バスネットワークが整備されたことにより、**以前は下宿や寮に入らなければ通えなかった広島市内の高校にも自宅から通学することが可能になり、暮らしの向上や、町の定住促進策にも役に立っています。**



⑬ 東九州自動車道の整備による救急医療への貢献

- 東九州自動車道(延岡市～宮崎市)の開通により、高速道路を活用したドクターカーの運用が開始し、人命救助に貢献。
- 高速道路ネットワークの整備により、移動時間の短縮や搬送者の負担軽減など救急医療以外の通院にも高速道路が活用されており医療活動に貢献。

ドクターカーの新規導入

- ・宮崎大学附属病院では、平成26年4月よりドクターカーの運用を開始。
- ・年間101件の出動実績のうち、**約20件で東九州道を利用**。



(ドクターカーとは)
ドクターヘリの出動できない悪天候時や夜間に医師や看護師を乗せていち早く救急現場に派遣する車両で、患者が病院に搬送されてくるのを待たずに現場で救命処置を始めることができるため、救命率の向上や後遺症の軽減などの効果が期待される。

■H27.3.16 朝日新聞(宮崎版)

- 高鍋町で夜間、軽自動車電柱に衝突する事故が発生し男性が意識不明となった。
- 宮崎大学附属病院からドクターカーが出動し「東九州道 宮崎西IC」で救急車と合流。(出動要請から26分後)
- 医師が車内で処置を行いながら宮崎大学附属病院へ搬送。
- 患者はショック状態で危険であったが、**従来より“26分”早く処置に入ることができ助かった。**

救急医療・通院患者の支援

<通院で東九州道を利用されるお客さまの声>

宮崎県の自宅から山口県の病院に約5時間かけて通院していました。日帰りで午前予約の通院では、一般道がちよ
うど朝の通勤ラッシュとなるため、**東九州道(豊前～宇佐)**
の開通により時間短縮が見込め予約時間に間に合います。

また、**体調不良の時など移動時間の短縮により負担がかなり軽減されるため本当にありがたいです。**

(NEXCO西日本お客様の声)



⑭ 中国地方の高速道路ネットワーク整備による救急医療への貢献(効率的な体制の構築)

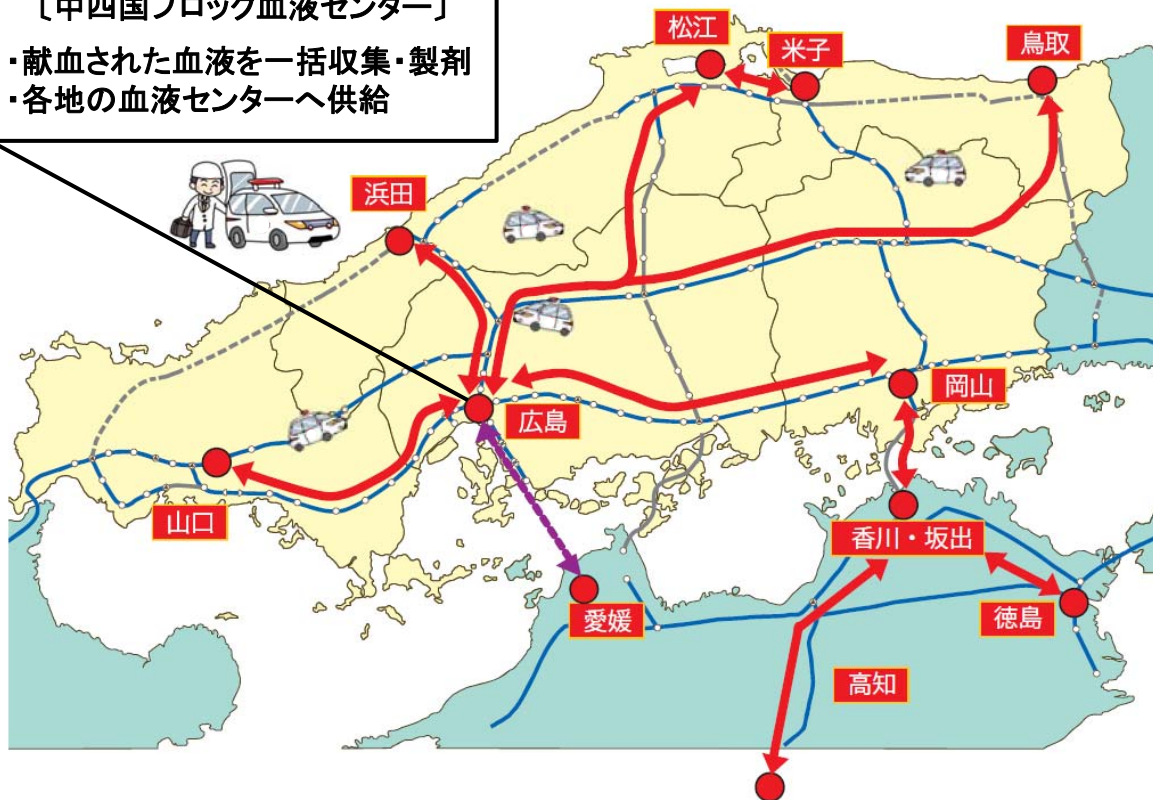
○高速道路ネットワークの整備により、献血された血液を有効に利用でき、血液製剤の迅速かつ安定的な供給に貢献。

⇒ 中国・四国地方で献血された血液は中四国ブロック血液センター(広島市)で一括集約・製剤し、必要とする血液センターへ供給する体制に変更。

中四国ブロック血液センターの主な拠点間の輸送ルート

〔中四国ブロック血液センター〕

- ・献血された血液を一括収集・製剤
- ・各地の血液センターへ供給



【日本赤十字社
中四国ブロック血液センターの声】

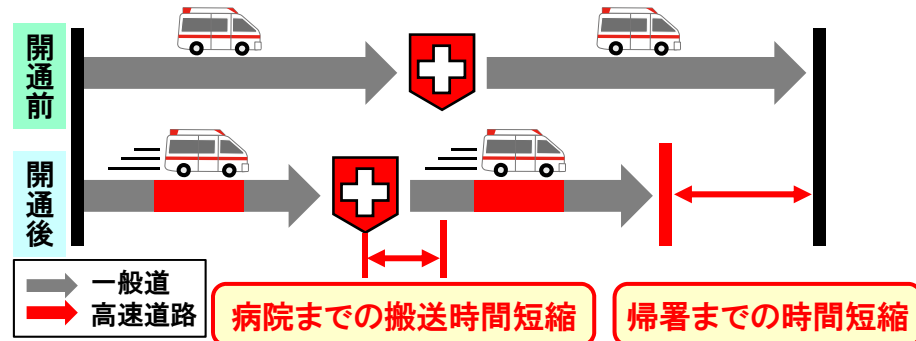
- ・少子高齢化が進む地方部では、輸血割合が高い高齢者人口が増加する一方で献血可能人口が減少しており、今後必要な血液を安定的に供給することが困難になることが想定されています。
- ・そこで、安全で均一な血液製剤を過不足なく供給するために、中四国地方で献血された血液を広島市に一括集約・製剤し、各血液センターに供給する体制に変更しました。
- ・高速道路ネットワークを利用することにより、広域に広がる各施設に対し、迅速かつ安定的に血液を供給することが可能となっています。
- ・また、通常は各県の血液センターに血液製剤を供給していますが、広島からの高速道路アクセスが優れている浜田供給出張所には、島根血液センター(松江)を経由せずに直接広島から浜田道を利用して血液を供給しています。



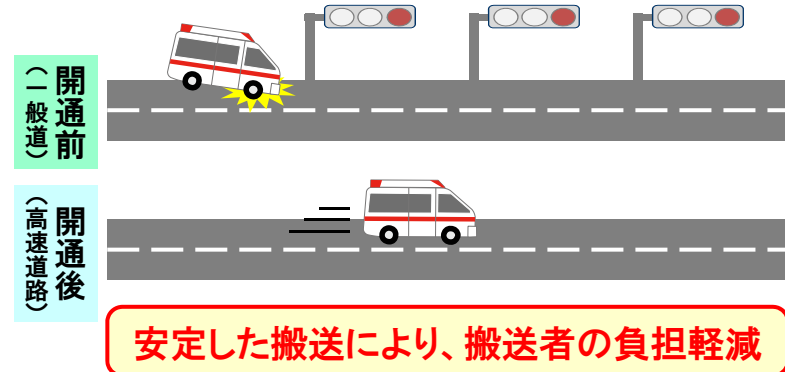
⑮ 新名神高速道路の整備による救急医療への貢献

- 新名神高速道路の開通に伴い、沿線地域から三次医療施設等への救急搬送が高速道路利用に転換。搬送時間の短縮や揺れ・振動など搬送者の負担軽減、また帰署時間も大幅に短縮され救急車不在となる時間が短くなるなど住民サービスの向上に貢献。
- 平成25年の台風18号では、一般道が最大で85日間通行止めとなったが、新名神高速道路の開通後は高速道路利用に転換していたため救急搬送に支障はなく高速道路が救急医療活動に貢献。

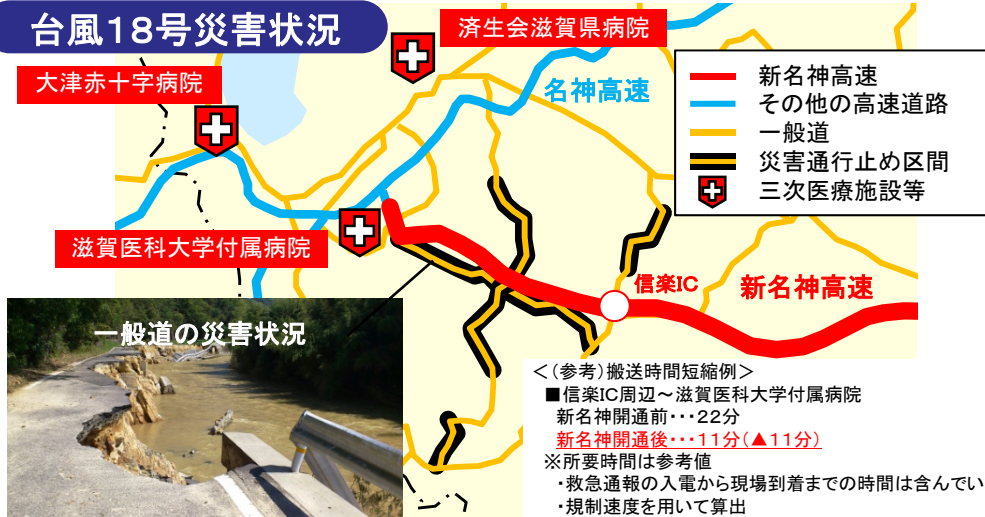
搬送時間の短縮



安定した搬送(ストップ&ゴーの軽減)



台風18号災害状況



【甲賀広域行政組合消防本部の声】

一般道から高速道路ルートへ転換したことにより、一般道と比較して大幅に搬送時間が短縮した。また、安定した搬送が可能となり傷病者及び隊員の精神的、身体的な負担が軽減している。

また、医療機関から消防署へ帰署する時間も短縮したことにより、次の出動に備える待機までの時間短縮が図られ、救急車不在となる時間が少なくなり、結果として住民サービスの向上へとつながっている。

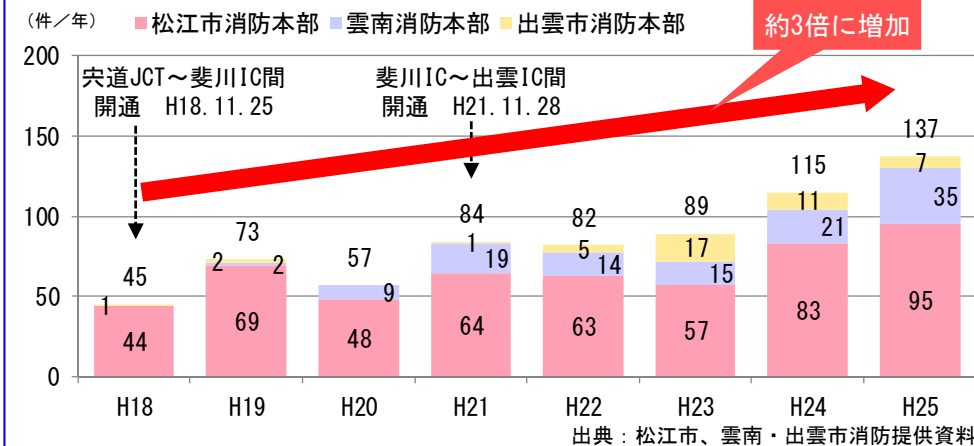
平成25年の台風18号の際、一般道が長期間災害通行止めとなっていたが、高速道路ルートへ転換していたおかげで、救急搬送に支障がありませんでした。



①6 山陰自動車道の整備による救急医療への貢献

- 三次医療施設等への搬送及び揺れ・振動など搬送者の負担軽減に貢献。
- 山陰自動車道を利用した搬送件数は、H18からH25にかけて約3倍に増加。

山陰自動車道を利用した救急・転院搬送件数の推移



出雲・松江・雲南圏域における二次、三次医療機関数

医療圏	二次医療機関	三次医療機関
出雲圏域	3*	2
松江圏域	5*	1
雲南圏域	4	0

※三次との重複を除く

雲南圏域の三次医療機関は0

出典：島根県保健医療計画 (H25.4)

【地元からの声】

(松江市消防本部)
 ・山陰自動車道は、並行する国道9号に比べてカーブや段差が少ないため、**傷病者への負担が少なくなる。**

(出雲市消防本部)
 ・第三次医療機関の病床をなるべく確保しておくため、軽病者を**斐川ICに近い徳洲会病院に搬送することが多い。**

(雲南消防本部)
 ・斐川ICを利用しての出雲市内への搬送が年に15～35件程度ある。
 ・振動の少ない搬送が望ましい患者の場合、**路面状態の良い山陰自動車道の利用を選択肢として考えている。**

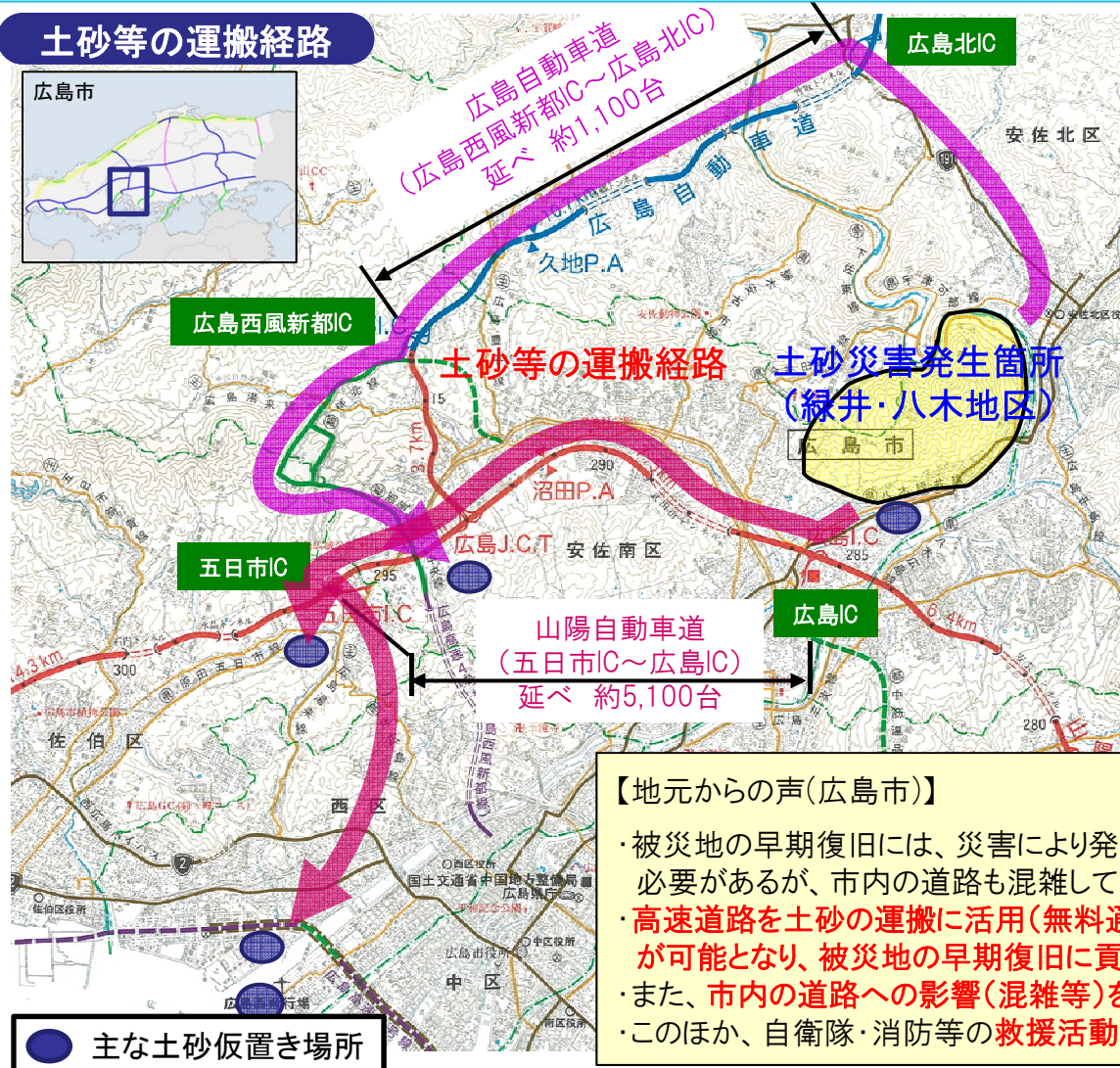


山陰自動車道を利用した救急搬送の状況




⑰ 山陽自動車道・広島自動車道の整備による 災害復旧への貢献

- 平成26年8月豪雨により、広島市で大規模な土砂災害が発生。
- 土砂等の運搬に高速道路を活用(無料通行措置)することにより被災地の早期復旧に貢献。



【地元からの声(広島市)】

- ・被災地の早期復旧には、災害により発生した大量の土砂等を速やかに仮置き場に搬出する必要があるが、市内の道路も混雑しており土砂等の搬出に課題があった。
- ・**高速道路を土砂の運搬に活用(無料通行措置)することにより、迅速に土砂を搬出することが可能となり、被災地の早期復旧に貢献した。**
- ・また、**市内の道路への影響(混雑等)を最小限に抑えることができた。**
- ・このほか、自衛隊・消防等の**救援活動や物資運搬にも高速道路が大きく寄与した。**

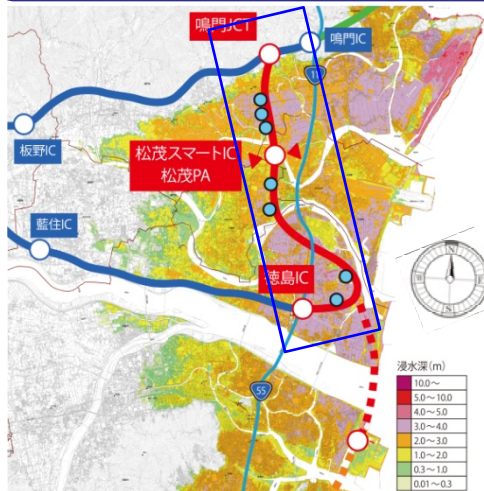


⑱ 徳島自動車道の整備による地域と連携した防災力の強化



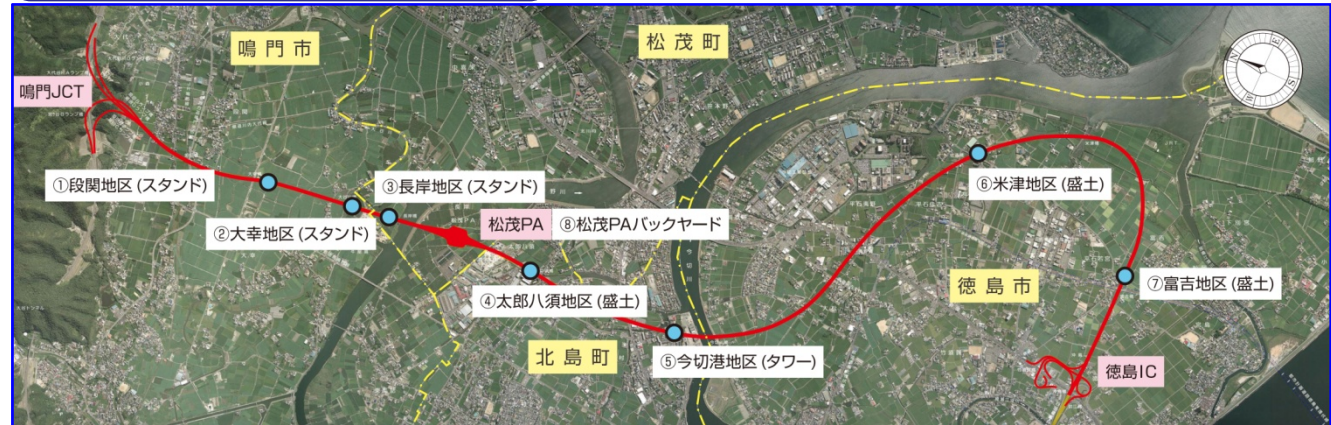
- 今後発生が予想されている南海トラフ地震による災害発生時、復旧作業や緊急輸送路としての機能に期待。
- また、沿線自治体と連携し、高速道路と一体となった津波一時避難場所を整備。

徳島県東部の津波浸水予測範囲



出典：津波浸水予測範囲(H24.10) 徳島県HP

津波一時避難場所（位置図）



●：津波一時避難場所

自治体と連携し、鳴門JCT～徳島IC間で7箇所の津波一時避難場所を設置

津波一時避難場所（整備状況）



高速道路 平均高さ8～9m

津波浸水深 最大3.0～4.0m

《イメージ図》

- ・震度6強で最大津波浸水深が3m～4mに達すると予測されています。
- ・高速道路の平均高さは8m～9mであり、予測浸水深より高いところを通過しています。